

目的：分散染料によるポリエステル繊維染色物は，他の繊維染色物に比して，鮮明さに欠けるために，カチオン染料可染の改良ポリエステルも上市されている。本報では，とくに鮮明染色に及ぼす染料，染色条件，繊維基質の影響を明らかにするために，分散染料およびカチオン染料を用いて，ポリエステル繊維およびその他の化学繊維を染色して，その鮮明性を比較検討した。

方法：染料としては，分散染料（アセテート用およびポリエステル用）およびカチオン染料（アクリル用およびポリエステル用）を用い，染料濃度（0.1～5.0% o.w.f.）を変えて，PH 5，浴比 1：50の浴液で 100℃および 125℃で 60分間染色して，その染色性をくらべた。

結果：染色布の評価は，分光比反射率曲線を求め CIE (1976)  $L^*$   $a^*$   $b^*$  表色系の数値から，明度 ( $L^*$ ) と彩度 ( $C^* = \sqrt{a^{*2} + b^{*2}}$ ) を算出して，ポリエステル繊維の鮮明性を他の繊維と比較した。その結果，①染色条件と鮮明性の関係は，Yellow の場合，染料濃度が増加すると明度は低下し，彩度は増加するが，Red, Blue の場合は，感る濃度をこえると彩度は減少する。②繊維基質と鮮明性の関係は，分散染料の場合アセテート繊維が最も鮮明であるが，疎水性基が導入された C.I. Disperse Yellow 64 はポリエステル繊維が最も鮮明である。カチオン染料の場合は，いずれの染料もアクリル繊維の方がポリエステル繊維よりも鮮明である。これらの結果を総合して若干の考察を試みる。

(註) 第1報：日本家政学会両面支那研究発表会発表(昭和60年11月30日)